

## 平成30年度学校保健統計調査の結果速報（高知県分）について【概要】

## 1 発育状態

男女ともに近年横ばい傾向であり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

## ○身長

- ・男子は5歳～17歳までの全年齢で全国平均を下回っており、最も低い14歳では1.1cm低くなっている。
- ・女子は11歳を除く年齢で全国平均を下回っており、最も低い16歳では1.2cm低くなっている。

## ○体重

- ・男子は7歳、12歳～17歳の年齢で全国平均を上回っており、最も重い15歳では1.5kg重くなっている。
- ・女子は8歳～15歳、17歳の年齢で全国平均を上回っており、最も重い11歳では0.8kg重くなっている。

## 2 肥満傾向児の出現率

年齢層によりばらつきはあるが、おおむね横ばい傾向にあり、全国はおおむね減少傾向にある。  
男子は14歳、17歳で、ここ3年ほど増加傾向が見られる。

- ・男子は6歳～8歳、11歳を除く年齢で全国平均を上回っており、最も高い15歳では4.01ポイント高くなっている。
- ・女子は5歳～7歳、16歳、17歳を除く年齢で全国平均を上回っており、最も高い8歳では3.80ポイント高くなっている。

## 3 健康状態

★裸眼視力が1.0未満の者は、近年高等学校はやや減少傾向にあり、小学校はほぼ横ばい。中学校がやや増加傾向にある。全国は増加傾向にあり、小学校、高等学校で過去最高。中学校も過去最高と同程度。H30年度の割合は、小学校、中学校、高等学校全てで全国平均を下回っている。

★虫歯（う歯）の者はおおむね減少傾向にあり、全国も同様の傾向。  
H30年度の割合は、全ての区分で全国平均を上回っている。

## ○主な疾病・異常の被患率別

- ・幼稚園・小学校  
「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、次いで幼稚園は「歯列・咬合」、小学校は「裸眼視力1.0未満の者」の順となっている。
- ・中学校・高等学校  
「裸眼視力1.0未満の者」の割合が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

## ○主な疾病・異常の被患率の対前年度比較

- ・「裸眼視力1.0未満の者」の割合<sup>\*</sup>は、小学校、中学校、高等学校で前年度を上回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園で前年度を上回ったが、小学校、中学校、高等学校は前年度を下回っている。

※幼稚園の「裸眼視力」項目について

疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が50人未満、回答園が1園以下又は疾病・異常被患率が100.0%のため統計数値の公表なし。

## ○主な疾病・異常の被患率の対全国比較

- ・「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、幼稚園を除く全ての区分で全国平均を下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、全ての区分で全国平均を上回っている。

## ■県のコメント

高知県の肥満傾向児の出現率や「むし歯（う歯）」の者の割合は、全国平均と比較すると高い状態が続いている。幼児、児童及び生徒の健康に関するこれらの課題の解決に向けては、基本的な生活習慣の定着が重要であることから、引き続き望ましい運動習慣の定着に向けた取組や、健康政策部や関係機関と連携した健康教育を推進していく。（高知県教育委員会）